

参考 7

情報発信、意見交換会等の現状

(「平成29年度食品安全委員会運営状況報告書（案）」補足資料)

平成30年5月30日
情報・勧告広報課

[内容]

	ページ
1 様々な手段を通じた情報の発信	1
(参考1) ファクトシートの更新	2
2 意見交換会	3
3 「食品の安全」に関する科学的な知識の普及啓発	4
(参考2) 「お母さんになるあなたへ」の更新	5
4 関係機関・団体との連携体制の構築	6
5 学術団体との連携	7

1 様々な手段を通じた情報の発信

- 各種メディアを通じた情報発信については、①季刊誌を中心とした紙媒体、②ホームページ、Facebook、ブログ及びメールマガジンを通じたネット媒体、③意見交換会等を通じた直接対話により実施。特にFacebookについては、機動的な対応も含めた各種記事の配信に傾注
- 「視覚的に理解しやすい媒体による情報提供手法」の一つとして、新たに公式YouTubeを立ち上げ、
①「精講：食品健康影響評価」及び②「みんなのための食品安全勉強会」について動画配信

○季刊誌の主な記事

発行月	特集記事	キッズボックス
H29.7	食品中のカフェイン	ジャガイモ
H29.10	フモニシン、ボツリヌス症	ジビエ
H30.1	栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針	牛乳
H30.3	無菌充填豆腐	山菜



○e-メールマガジン登録者数

	読み物版	weekly版
25年度末	190	9,567
26年度末	377	9,460
27年度末	536	9,593
28年度末	673	9,377
29年度末	746	9,211

出典：情報・勧告広報課調べ

○YouTube の配信



<「精講」講座の風景（吉田委員）>

○Facebookの記事数・閲覧者数の推移

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
記事数	26	157	113	151	190
閲覧者数	10,310	139,762	411,810	490,246	647,093

出典：情報・勧告広報課調べ

○Facebookの記事の事例

<健康被害案件（機動的対応）>

投稿日	投稿記事	閲覧者	いいね	シェア
4/10	乳児ボツリヌス症の死亡事案の発生	15,325	542	97
5/16	イヌサフランを原因とする死亡事案の発生	8,215	271	45

<注意喚起（季節性）>

6/9	かび毒に注意	7,151	254	42
7/24	ジャガイモによる食中毒を防止	6,901	228	37

<科学的知識の普及>

5/11	アニサキス症の予防	14,276	695	66
3/16	お母さんになるあなたへの更新	12,025	445	79

出典：情報・勧告広報課調べ

- 食品安全委員会では、主に自ら評価の案件候補を選定する過程で、評価案件に至らなかつたもののうち、現状の科学的知見を整理して情報発信すべきとされたものについて、ファクトシートを作成し、これを公表
- 平成29年度においては、新規の鹿慢性消耗性疾患（CWD）を含め、5件のファクトシートを更新
- 平成30年度においては、既存のファクトシートについて、健康被害が発生している事案（毎年特に注意が必要な食中毒）など優先順位をつけつつ、最新の科学的知見を整理し、計画的に更新作業を実施予定

【主なファクトシート】

- ・鹿慢性消耗性疾患（CWD）
- ・アニサキス症
- ・ボツリヌス症
- ・A型肝炎
- ・食品中のカフェイン
- ・カンピロバクター
- ・麻痺性貝毒
- ・ジビエを介した人獣共通感染症
- ・ラップフィルムから溶出する物質
- ・ヒスタミン

ほか

食品安全委員会
内閣府 Food Safety Commission of Japan

鹿慢性消耗性疾患（CWD）（概要）

ファクトシート
《作成日：平成29年10月24日》
《最終更新日：平成30年4月17日》

1. 鹿慢性消耗性疾患（CWD）とは
鹿慢性消耗性疾患（Chronic Wasting Disease: CWD）は、シカ科の動物が罹患する伝達性海绵状脳症（Transmissible Spongiform Encephalopathy: TSE）であり、アメリカアカシカ（*Cervus canadensis*）、アカシカ（*Cervus elaphus*）、ミュールジカ（*Odocoileus hemionus*）、オグロジカ（*Odocoileus hemionus*）、オジロジカ（*Odocoileus virginianus*）、ニホンジカ（*Cervus nippon*）、ヘラジカ（*Alces alces*）及びトナカイ（*Rangifer tarandus*）が感受性動物であることが知られている^{1,2)}。これまでに日本における発生は確認されていない（2018年3月末現在）。また、食品を介した経路も含めて、病原体であるCWD ブリオンが、人へ感染することを示す証拠はこれまでに確認されていない。一方、近年、諸外国では CWD のシカ科動物間における感染拡大が報告されている。これらのことを探まえ、査読を受けた科学論文として報告されている知見を整理し、本ファクトシートとして取りまとめた。

2. 発生状況
CWD は、米国、カナダ、韓国、ノルウェー及びフィンランドにおいて発生が確認されている。
1967年、米国コロラド州の野生動物研究施設で捕獲・飼養されていたミュールジカで、原因不明の消耗性疾患として初めて報告され、1978年にTSEであることが明らかにされた。米国では、1997年に野生動物のサーベイランスを開始し、これまでに、野生・飼育下合わせて24州³⁾において発生が確認されている（図1）^{1,3,4,5)}。カナダでは、1996年にサスカチュワン州の農場において初めて報告され、以降、アルバ

※ 赤字が追加又は修正したもの

2 意見交換会

- 学校教育関係者（重点対象）との意見交換会は、①地方公共団体との共催による研修会の開催、②地方公共団体等の主催による学校給食や栄養教諭の研修会への講師派遣により対応
- 学校教育関係者以外についても、地方公共団体等からの要望に応じた講師派遣、初となる消費者庁と連携したこども霞が関見学デーへの参加、消費者庁等の関係省庁と連携した意見交換会等を開催

○学校教育関係者を対象とした研修会の開催状況

開催日	共催先	内容	参加者数
8/7	大阪府	食品安全を守るしくみ、食品添加物の安全性	28名
8/9	岡崎市	食品添加物	22名
8/21	東京都	食中毒、食品添加物	43名
8/25	広島市	食中毒(カンピロバクター中心)	19名
10/30	熊本県	リスクアナリシス	17名
11/20	兵庫県	食品添加物	58名
1/19	岡山県	農薬	22名

○地方公共団体等の栄養教諭等への研修会の講師派遣

開催日	派遣先	内容	対象者
6/23	京都府	食品安全に関する基礎知識	栄養教諭、学校栄養職員
8/31	埼玉県	リスクコミュニケーション	保育園、幼稚園、学校等の教職員
9/11		調理学	
11/8		情報発信	
1/28	宮崎県栄養士会	カフェイン	管理栄養士、栄養士

○関係省庁と連携した取組の開催状況

開催日	開催地	内容
6/27	広島県	食品の安全を守る取組～農場から食卓まで～
7/5	北海道	
7/11	神奈川県	
7/22	東京都	知ろう！考えよう！親子で学ぶ、食品中の放射性物質
7/28	宮城県	
8/19	大阪府	
10/27	東京都	今、改めて考える 食品中の放射性物質に対する現状と取組
11/1	宮城県	
11/7	愛知県	
11/21	福岡県	
12/13	東京都	健康食品との付き合い方を考える

3 「食品の安全」に関する科学的な知識の普及啓発

- 平成29年度より、参加者に見合った講義内容とするため、リスクアナリシス連続講座を改訂し、
 - ① 食品関係事業者、研究者等一般的な科学的知識を有した者を対象に、食品安全委員会の食品健康影響評価について、評価の過程や結果についての理解を深める「精講：食品健康影響評価」
 - ② 一般消費者を対象に、食品の安全に係る科学的基礎知識について広く普及する「みんなのための食品安全勉強会」の2種類の講座を実施

○ 「精講：食品健康影響評価」の概要

	第1回	第2回
テーマ・講師	<ul style="list-style-type: none">・加熱時に生じるアクリルアミドの食品健康影響評価 (講師：吉田委員)・食品由来のアクリルアミド摂取量の統計的推定 (講師：青木国立環境研究所フェロー)	
開催日	7/31	12/11
開催場所	東京	大阪
対象者	食品関係事業者、その他基本的な科学的知見を有した者	
参加者数	43名	20名

【精講：食品健康影響評価 実施風景】



【みんなのための食品安全勉強会 実施風景】



○ 「みんなのための食品安全勉強会」の概要

	第1回	第2回	第3回	第4回
テーマ・講師	<ul style="list-style-type: none">・食べ物と食品安全の基本について (※) (講師：小平食品安全委員会事務局次長)・カフェインの安全性及びコーヒーについて (講師：佐藤委員長)			
	※ 第4回のみ健康食品との付き合い方と合わせて説明 (情報・勧告広報課課長補佐対応)			
開催日	11/13	12/7	3/9	3/14
開催場所	北海道	東京	東京	大阪
対象者	一般消費者			
参加者数	37名	70名	32名	40名

○ 「みんなのための食品安全勉強会」の主な意見等

- ・食品のリスク評価について詳細に理解できた。
- ・わかりやすい表現で説明していただいたが、内容は専門的なものが多くやや難しいと感じた。
- ・カフェインやコーヒーについて科学的根拠に基づいた知識が理解できた。
- ・委員会の人たちを身近に感じることが大切だと感じた。
- ・安全=安心ではないと理解できるが、安全が安心に結びつく施策やコミュニケーションはどうすればいいか。
- ・ワークショップも開催してほしい。

食品安全委員会では、これからお母さんになる妊婦の方に食生活を考える上で知っておいていただきたいトピックをウェブ上で紹介。今回は、リステリアによる食中毒などについて新しく情報を追加（平成30年3月6日更新）

- ・ビタミンAの過剰摂取等について
- ・大豆イソフラボンの摂取について
- ・リステリアによる食中毒について
- ・ハチミツの摂取による乳児ボツリヌス症について
- ・魚介類等に含まれるメチル水銀について
- ・葉酸サプリメントの摂取について
- ・アルコール飲料の摂取について
- ・乳幼児の食べ物による窒息事故を防ぐために
- ・その他の情報

※ 赤字が追加トピック

 食品安全委員会
Food Safety Commission

平成21年11月26日作成
平成30年 3月 6日更新

 お母さんになるあなたへ

赤ちゃんは、妊娠2ヶ月（7週）頃お母さんのおなかの中で発育をはじめ、妊娠4ヶ月末（15週）頃には胎盤の形成が終了し、赤ちゃんの形態や機能がほぼ完成します。その後お母さんから栄養をもらって誕生までの間発育を続けます。
おなかの中の赤ちゃんは、機能が未発達のため、胎盤を通過した有害物質を代謝や排泄することが上手にできません。
赤ちゃんがおなかの中に宿ったら、もうお母さんだけの体ではありません。

ところで、いのちの源である毎日の食事。偏食をさけ、多様な食品をバランスよく食べることが基本ですが、このページでは、これからお母さんになる妊婦の方に、食生活を考える上で知っておいていただきたいトピックを、項目別にご紹介します。

- ビタミンAの過剰摂取等について
- 大豆イソフラボンの摂取について
- リステリアによる食中毒について
- ハチミツの摂取による乳児ボツリヌス症について
- 魚介類等に含まれるメチル水銀について
- 葉酸サプリメントの摂取について
- アルコール飲料の摂取について
- 乳幼児の食べ物による窒息事故を防ぐために
- その他の情報

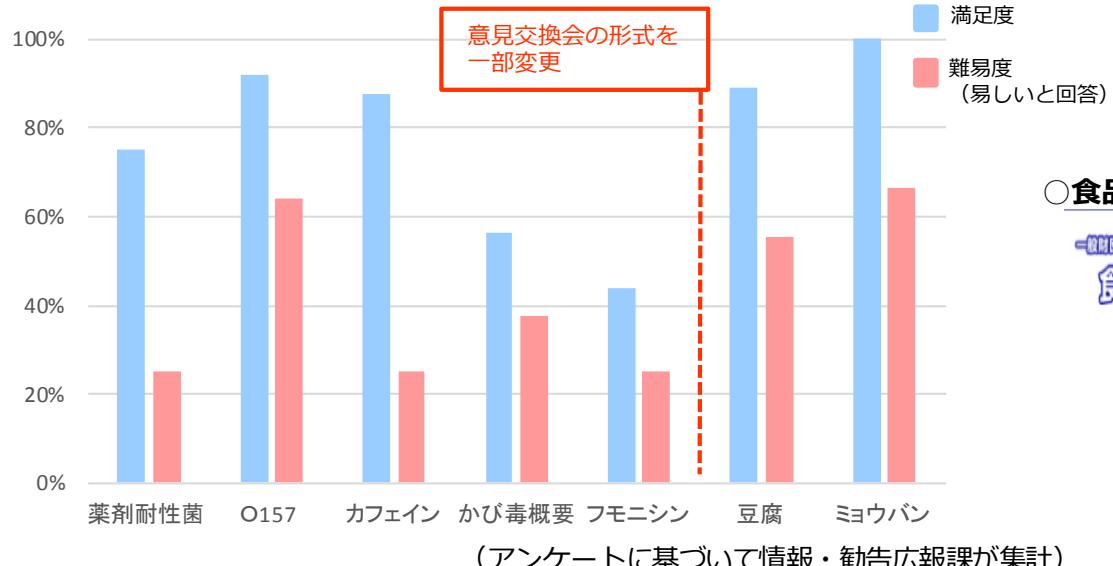
4 関係機関・団体との連携体制の構築

- マスコミ関係者に対する食品安全に係る知識の普及活動は、「報道関係者との意見交換会」により対応。平成30年3月には、議題ごとの質疑応答、机の配置の変更等を行い、出席者がより参加しやすい方式に変更
- 関係職能団体との連携強化を図る観点から、(公社)日本栄養士会、(一財)食品産業センター及び(公社)日本医師会と意見交換を実施。例えば、日本栄養士会については、現場で働く栄養士の声を踏まえ、食品安全委員会からの情報を団体ウェブサイトを通じて提供

○報道関係者との意見交換会 開催実績（直近5回）

開催月	テーマ
H29. 1	O157と薬剤耐性菌
5	カフェイン
11	フモニシン
H30. 3	無菌充填豆腐とミョウバン
5	脂質

○報道関係者との意見交換会 満足度、難易度



○日本栄養士会ウェブサイトでの情報提供

【食品安全委員会】ジャガイモによる食中毒、原因と対処法

公益社団法人
日本栄養士会 2017/10/04 ニュースのポイント



- 原因は、アルカロイドと呼ばれる有害成分を多く含むこと
- 有害成分は、ジャガイモの発芽部や緑色の皮の部分に多く含まれている
- このあと、11月～2月は注意が必要

身近な食材であるジャガイモで、毎年のように全国で食中毒が起きている。ジャガイモの食中毒は、発芽部や緑色の皮の部分に多く含まれるソラニンやチャコニン等のアルカロイド（ステロイド系アルカロイド配糖体）と呼ばれる有害成分を多く食べることによって起こる。

食中毒の原因施設は、ほとんどが学校で、発生時期は6～9月、11～2月で、特に7月が多い。症状は、おう吐、下痢、腹痛、めまい、動悸、耳鳴り、意識障害、けいれん、呼吸困難などで、ひどい場合には死に至ることもある。早いときは数分後から症状が始め、遅いときは数日後に出ることもある。

○食品産業センターウェブサイトでの講座の情報提供

セミナー・イベント情報

内閣府食品安全委員会「みんなのための食品安全勉強会（カフェインの勉強会）」開催

内閣府食品安全委員会が主催する「みんなのための食品安全勉強会（カフェインの勉強会）」が2017年11月13日（月）札幌、2017年12月7日（木）東京で開催されます。詳細は下記URLをご参照下さい。

「みんなのための食品安全勉強会（カフェインの勉強会）」開催のお知らせ
<http://www.fsc.go.jp/koukan/annai/minna20171005.data/20171117.pdf>
(食品安全委員会のサイトへジャンプします)

5 学術団体との連携

- 学術関係者との一層の連携強化を図るため、平成29年度より、
 - ① ブース展示をする学会においては、食品安全委員会の委員の講演やポスター発表をセットで実施するとともに、
 - ② 学会の参加者が食品安全委員会のブース展示に興味を持てるよう、一律の展示内容ではなく、学会ごとの専門性に合わせた展示を実施
- 平成30年1月に開催された日本毒性病理学会では、初となる学会と共に市民公開講座を実施

○平成29年度 学会へのブース展示等状況

学会名	委員の講演・ポスター発表	その他
日本毒性学会 (7/10~12)	佐藤委員長 講演「食品安全とリスク評価」	
日本先天異常学会 (8/26~28)	吉田委員 講演「食品中化学物質の毒性評価において毒性学的専門性を総合的に考察する重要性と生殖毒性学への期待」	
日本食品微生物学会 (10/5、6)	山本委員 講演「食品安全委員会の現状と今後」	
日本毒性病理学会 (1/25、26)	吉田委員 ポスター発表「ベンチマークドーズ(BMD)法を適用した化学物質の毒性評価において適切な毒性病理所見をエンドポイントとして選択するために毒性病理学者が注意すべき点」	共催で市民公開講座を実施 (吉田委員) 講演「カフェインについて」

○平成29年度 学会へのブース展示の風景



日本毒性学会



日本食品微生物学会

○学会との共催市民公開講座



日本毒性病理学会

